The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞文草の会著『菅家文草注釈 文章篇 第二冊 巻七下』
Author(s)	川上, 莉奈
Citation	語文. 2020, 114, p. 59-59
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/85451
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

文草の会著『菅家文草注釈　文章篇　第二冊　巻七下』

川　上　莉　奈

『菅家文草』は、菅原道真が自ら編纂した全十二巻の漢詩文集で、巻一～六までに漢詩、巻七以降にそれ以外の文体の作品を収めている。昌泰三年（九〇〇）に祖父清公の『菅家集』や父是善の『菅相公集』とともに醍醐天皇に献上された。翌年の昌泰四年には道真は太宰権帥として九州に左遷されるため、その直前までの漢詩文を収めた集となる。

『菅家文草』の注釈については、様々な研究者による選釈と、川口久雄校注の日本古典文学大系『菅家文草　菅家後集』（岩波書店、一九六六年）の全釈が存在する。このうち、現在参照されることが多いのは、全釈である日本古典文学大系本だと思われる。しかし、日本古典文学大系本では巻一～巻六に収められる詩に対する注釈はあるものの、巻七以降のその他の文体については原文のままの漢文に返り点と部分的な読み仮名・送り仮名と簡単な解説が付されているのみである。本書「はじめに」で述べられているように、文草の会では、『菅家文草』の詩以外の作品への注釈を付すこと、また、日本古典文学大系刊行から五〇年を経て深化した研究をもとに行われる詩の読み直しを促すことなどが目的とされた。そのために、まず前冊『菅家文草注釈　文章篇　第一冊　巻七上』（勉誠出版、二〇一四年）が刊行され、続いて本書が刊行された。

さて、本書『菅家文草注釈　文章篇　第二冊　巻七下』では文草の会（北山円正氏、後藤昭雄氏、滝川幸司氏、仁木夏実氏、本間洋一氏、三木雅博氏の六名。五十音順。）の手により『菅家文草』の詩以外の文体を収める巻七のうち、詩序二十二篇への注釈がなされている。もとの『菅家文草』巻七「序」には詩序の表題のみしか記載はなく、また巻七に記載されてる詩序の本文自体は巻一～巻六に詩とともに収載されている。本書では巻七に記載されている順に、巻一～巻六所収の詩序本文への注釈が行われている。

最初に本間氏による序そのものへの文体解説があり、その後にそれぞれの詩序への注釈が続く。詩序本文の注釈では、序の書かれた状況等への解説があり、詩を載せ、その後に題注があり、続いて詩序本文の校異、語釈そして最後に詩序の通釈という流れとなっている。また、本書末には語釈に取り上げられた語彙の索引が設けられている。詩序本文は、これまでの多くの注釈書のように連綿と文を続けて載せるのではなく、対句や文章構成に応じて適宜改行された状態で記載されているため、一見して文の構成が把握しやすいようになっている。

本書は、菅原道真のみならず、道真の影響を受けた周辺文学の研究の一層の発展に寄与するだろう。

（勉誠出版、二〇一九年五月、二八三頁、六、五〇〇円＋税）

（かわかみ・りな　本学大学院博士前期課程）